

東京都（伊豆諸島）利島村方言アスペクト

山口幸洋

I. はじめに

(1) 調査地点：東京都（伊豆諸島）利島村

利島は東京都といっても神奈川県沖合いの太平洋上にあり、明治初年当初は蕪山県（現静岡県）で、地理上も静岡県伊豆半島に近い。位置的には同じ東京都伊豆大島の南方25.5キロで、この南方に新島をのぞむ。周囲8キロ、面積4,19k㎡の小島である。人口は平成4年309人である。大型定期船が就航したのは伊豆諸島にあって利島だけが昭和55年まで遅れていた。主たる生産品は「椿油」そのほかの農産物と近海漁獲物である。

(2) 調査日時：1993, 8, 9. 午前9時～11時30分

(3) 回答者：梅田きわ子（大正4年生）、川崎みえ子（大正14年生）

なお両名は姉妹、両名とも大島在住。利島には1994, 6, 25～26日にも調査したが、資料としては本件話者を採用する。

(4) 報告者：山口幸洋

(5) 表記上の要領および音韻上の問題点：

- 1) 母音連結／e i／は長音化せず、連母音的でないはっきりした[e i]と発音する。
- 2) ／a i, u i, o i／は連母音的な一体化発音になる。が、融合長音化しない（大島、新島では[e :, i :, e :]）せず[a i, u i, o i]と実現する。
- 3) 単独の母音「お」が語頭語中を問わずワ[w o]である。
- 4) 「～て置く」なども融合せず「～トラク」と実現する。
- 5) 助詞「へ、は、には、では、ては」、動詞仮定形「～ば」も通常融合しない。
- 6) 方言文例で重複する場合は～で省略することがある。
- 7) 回答語形が前問と同じ場合は、設問の後に＝及びその番号を付して省略。

（例、19・20が同形の場合、20問の後に「＝19」と記載）

8) 回答語形以外に他の言い方がある場合「*」マークのもとにそれを提示する。

9) 設問2, 4, 23, 24, 39に対する回答には「過去表現」「～ケ」に代わる

「～タ」形もありうるのであるが本報告書においては、「～タ」形を省略する。「～ケ」／「～タ」は、本来「過去表現」／「完了表現」であるが、この違いは本調査では求められていず、一方、現地方言においても共通語形「～タ」の浸透（方言の本来としては「～ケ」というべきところを併用形として「～タ」があらわれる）があって、現実の談話では混乱していないと思われるのに「内省報告」ではしばしば混乱がある。すなわちこの件についての確かな回答は得られがたい面があり、内省報告に忠実であると、かえって事実には忠実でなくなることがありうるからである。なお、「ツケ」に関しては「静岡県榛原郡中川根町尾呂久保方言のアスペクトでも述べたので参照されたい。伝統方言「ツケ」の保存という観点から見ると、利島は全般的に非常によい地域だと言える状況にある。

しかしそうであってもこの種調査では、聞き取り側の文法カテゴリーに「過去形、過去完了形」がないために犯す「誤り」が伴う点を注意しなければならない。

II. 調査結果

1. (昔はよくトンボ捕りに) 行ったもんだね

a) イッ「タ」ツケナ「ー, b) イッ「タモ」ンダナ「ー, c) イッ「ケ」ナ「ー

(注) aは過去完了表現, bは完了表現を客観的に述べる趣があり, cは過去表現を直接的に述べる趣がある。

2. (あの頃は) 面白かったなあ

ヲ「モシ」ロカッケナ「ー

3. (もうちょっとで) 落ちるところだった

ヲッ「コチ」ロトコロ「ダ」ツケ

(注) この方言には全般に動詞終止形がオ段で実現するという特徴があり, 現在でも老人間では普通に話されている点に注意される(間違いではないので念のため)。なお, さらに動詞にヲッコチロ(落ちる), ウッケイル(消える)のように接頭語がついている場合が多いが, これも「強調」ではない。以下略。

4. (ポケットから財布が) 落ちそうだよ

ヲ「ッコチ」ソ「ー」ダ「トド (*~ヨ)

5. (財布を) 落として

ヲ「ッコト」シテ, ヲ「ッコト」イテ, *ヲ「ト」シテ, *ヲ「ト」イテ

6. (その続き) 困っている

コ「マ」ッテイロ

7. (ろうそくが) 消えそうだよ

「ウ」ツケイソ「ー」ダ「トド (*~ヨ)

(参考) 7' (ろうそくが) 消えるよ

「ウ」ツケイロ「ニ

8. (ろうそくの火が) 消えようとしている=消えかかっている

「ウ」ツケイベイニ

9. (完全に, 今見ている内に) 消えた

「ウ」ツケイタ

10. (見に行ったら, もう) 消えていたよ

「ウ」ツケイテイタ「トド (*~ヨ)

(注) この場合の~ヨは最近の言い方か。以下略。

11. (何本ものろうそくが, 時間が経ったので順に) 消え始めた

ケ「イ」ハジメ「ト」タ

12. (その様子を見て) 消えて行くなあ

「ウ」ツケイテコナ「ー

13. (その様子を見て) 消えているよ (と, 人に言う)

「ウ」ツケイテイロ「トド (*~ヨ)

14. (全部のろうそくが消えた様子を見て) 消えているよ

「ウ」ツケイテイロ「トド, 「ウ」ツケイテシマッテイロ「トド, (*~ヨ)

15. (沢山のろうそくを, 係りの人が次々と) 消しているよ

ケ「シ」テイロ「トド (~ヨ)

16. (その様子を別の人に見に行かせて, 全部消したかどうかを聞く)

消しているか=消してしまったか

ケ「シ」タ「ナ, ケ「シ」テイロ「ナ, ケ「シ」テシマッタ「ナ (~ネ)

(注) 質問の文末用法において「ナ」というのである。東京語の「の」と比べられるものか。山へ行く人に向かって「山エイクナ」のように禁止のような言い方(イントネーション的に同じ)をするということで話題になるという。以下略。

17. (今にも桜が) 散りそうだ

チ「リ」ソ「ー」ダ

18. (ちらほら) 散り始めた

チ「リ」ハジメ「ト」タ, チ「リ」ハジメ「ト」テイロ

19. (今現に) 散っている チツ「テイロ
20. (桜を見に行ったら、もう木には花が残っていないくて) 散っている
チツ「テシマツテイロ
21. (地面に花びらが) 散っている = 20
22. 今にも降りそうだ フリソ「コーダ
23. (以前の様子。あのときは今にも) 降りそうだったなあ
フリソ「コーダツケナ「
24. (以前の様子。あのときは実際にはもう) 降っていたよ
A「フ「ツッテイ「ケ「ド, (*「フ「ツッテケ「ド), (*～ヨ)
B「フ「ツッテシマツテイ「ケ「ド (*～ヨ)
25. (あのときはやがて夜が) 明けようとしていたよ
A「ケ「ベイトシテイタ「ド, *A「ケ「カカ「ツッテイタ「ド (*～ヨ)
(参考) 25' (もう夜が) 明けようとしているよ A「ケ「ベイニ
26. (来年の今ごろは) 家をたてている (最中だ)
イ「エ「ヲ「タ「ツッテイロ, イ「エ「ヲ「タ「ツッテロ
27. (来年の今ごろはすでに) 家をたてているよ (建て終わっている)
イ「エ「ヲ「タ「ツッテイロ, イ「エ「ヲ「タ「ツッテシマツテイロ
28. (あの家はよく) 磨いてある ミ「ガイ「テ「ア「ロ
29. (隣の犬が) 鳴いている ナ「ガイ「テイロ
30. (隣の子が) 泣いている = 29
31. (子供が) 喧嘩している ケ「ン「カ「シ「テイロ
32. (家に) いるかなあ イ「ロ「カ「ナ「
33. (〇〇さん) いるかい イ「ロ「ナ, イ「タ「ナ (～ネ)
34. (ああ) いるよ イ「ロ「ガ
35. (噂話で) そういう人もいるよ ソ「ー「ユ「ヒ「ト「モ「イ「ロ「ガ
36. (あなたは今) 何をしていたか ナ「ニ「ヲ「シ「テイ「タ「ド「
37. (私は今金魚を) 見ていたよ 「ミ「テ「イ「タ「ー「ガ
38. (金魚が今にも) 死にそうだ シ「ニ「ソ「ー「ダ
39. (夕方帰って見たら、その金魚は) 死んでいたよ
シ「ン「デ「イ「ケ「ド, (*シ「ン「デ「ケ「ド), (*～ヨ)
40. (本を) 読み始めていた
ヨ「ミ「ハ「ジ「メ「テ「イ「ケ「ド, (*ヨ「ミ「ハ「ジ「メ「テ「ケ「ド), (*～ヨ)
41. 読み始めていたところへ (電話がかかって来た)
ヨ「ミ「ハ「ジ「メ「テ「イ「タ「ト「コ「ロ「イ
42. 着くと同時に (昼飯を) 食べた 「ツ「コ「ト, 「ス「グ「ク「ツ「タ
43. (向こうへ) 着くと同時に電話をくれ
「ツ「イ「タ「ラ「ス「グ「デン「ワ「ク「レ「リ「ヤ「レ, (*～ク「レ「リ「ヨ)
44. (電話が) 鳴り続けている ナ「リ「ツ「ズ「ケ「テ「イ「ル

45. (小学生の小孩に) 先生は何をしている?
セ「ンセ「ローワ 「ナ「ニヲシテイ「ルデー
46. 好きだ
ス「コ「ジヨ, ス「キ「ダ
(注) スコダジヨという言い方もあると思われる。スコは動詞「好く」。なお「好き」の反対(きらい)はスカンである。
ジは語源的に不明。意志・勧誘形にもよく用いられ(例:「行こう」に対してイクジニ, イコジヨ)伊豆半島に見られる「ジャ」に近いものと思われる。稀だが, ジョと発音されることもある。
47. 見られているのも知らずに寝ている
ミ「ラ「レテイロノモシラナイデネ「テイロ
48. (今, 運動会が) ある=(運動会を) やっている
ヤッ「テイロ
49. 降らなくて良かったよ
フ「ラ「ナクテ 「ヨ「カクケド,
フ「ラ「ナクテ 「ヨ「カクケガナ「
50. (病院でかかりつけの先生がこっちへ) 来つつある 「ク「ログ, 「キ「テイログ
51. (犬がこっちへ) 来つつある 「ク「ログ, 「キ「テイログ
52. 似ている ニ「テイロ
53. (一週間も前から遊びに) 来ている 「キ「テイロ
54. (あの子は昔から) 苦勞していない ク「ローシテイナイ
55. (今はあまり) 苦勞しないている=苦勞していない ク「ローシテイナイ
クローシナイデイロ
56. 酒は売って(は) いるが, タバコは売って(は) いない
サ「ケワウッテイログ, タ「バコワウッテイナイ「ジヨ
57. (昔からタバコを) 売っている ウッ「テイロ
58. (今, 夜店で) 売っている=57
59. (もう三回) 来ている 「キ「テイロ
60. (いつも) 来ている=59
61. (昔はいつも) 来ていた 「キ「テイケ, *「キ「テケ
62. (前に一度) 行っている イッ「テイロ
63. 先に行っておいてくれ サ「キニイトヲ「イテクレリ「ヤイ
64. 待っていなさい 「マ「ッテイリ「ヤイ
65. (外に) 待たせてあるよ マ「タ「セテア「ログ, マ「タ「セテイロニ
66. (先に) 食べておいてくれ サ「キニク「ットライテクレリ「ヤイ
67. (昔と) 違っている チ「ガッテイロ
68. (昔は今のと) 違っていた チ「ガッテイケ
69. (毎日梅干しを) 食べている 「ク「ッテイロ
70. (体操を毎朝) している シ「テイロ
71. 気をつけていて(怪我をした) キ「ヲツ「ケテイテ
72. 行ったまま(帰ってこない) イッ「タツキリ

73. 話をしながら (走っている) シヤ「ベリシヤコベリ~, ハ「ナシコオシナガラ
(参考) 「食べながら話す」は「クコイクコイシヤベコル.
74. (役場へ) 行く途中, (郵便局に) 寄る イ「コトチュー ヨロコニ
75. (役場へ) 行く途中, (偶然知り合いに) 会った
イ「コトチュー イキヤコッタ
76. (本を) 読むのを (途中で) やめて (表へ) 出た
「ヨコモノー ヤ「メテデコタ
77. (その本は) 読んだばかりだ 「ヨコンドバツカリコダ
78. (読もうとしたら, 眼鏡が) 無くなっている ナ「クナコッテイロ
79. (早く食べないと) 無くなるぞ ナ「クナコロド (*~ヨ)
80. (ここに) 掛けておいた帽子がない 「カコケトライタボーシガナコイ
81. (この本棚に) 並んだ本 ナ「ランダホコソ
82. (この机に) 並べた本 ナ「ラベタホコソ
83. (今の内にこの仕事を) やっておこうか ヤ「トラクベコイ
84. (もう掃除は) やってあるか ヤ「テアコロナ (*~ネ)
85. (孫がおもちゃを) 壊している コ「ワコイテイロ, 「ブコッコワイテイロ
86. (おもちゃがもう) 壊れている コ「ワレコテル
87. (おもちゃがもう) 壊されている コ「ワサコレテル
88. (割れたガラスは危ないから) 退けてある ナ「ヲコシテアコロ,
カ「タズコケテアコロ
89. (お礼状は) 書き終わった カ「キオワコッタ
90. (早く) 書いてしまいなさい 「カコイテシマイヤレ
91. (間違った字を) 書いてしまう 「カコイテシマウ
92. (ちょっと難しい字を) 書いてみた 「カコイテミコタ
93. (おじいさんは) 入院している ニュ「ーインシテイロ
94. (東京にいる, おじいさんの弟もどこかへ) 入院しているそうだ
ニュ「ーインシテイロコッテイヨ (*~ッテイヨガ), (*~ッテイヨヨ)
(注) 「伝聞」は一般に「~ッテイヨ」が用いられる。
95. (きっと) 良くなるよ 「ヨコクナコロガ (*~ヨ)
96. (だんだん) 良くなるよ=95
97. 年をとると (歯が悪くなる) =年をとってくると~ ト「シコガヨロト
(参考) 97' 年をとったから~ ト「シコガヨッタコニ
98. (歯は) 直らなくなる=直らなくなって行く=直らなくなって来る
ナ「ランナクナコロ, ナ「ランナコクナコッテコ, ナ「ランナクナコッテクコロ
- 99-1. (犬が) 怪我したので (病院へつれていく) ケ「ガコーシタニ~
-2. (子供が) 怪我したので~ ケ「ガコーシタニ~
-3. (お父さんが) 怪我したので~ ケ「ガコーシタニ~
(注) 助詞「を」の場合は, 「ヲ (稀にヲバ)」と実現するほか, ケガ (怪我

を), コメー (米を) のような長音化もある。

ー 4. 雨が降ってきたのでやめておく。 「ア¹メガフ¹ッテキタニ ヨ¹スベ¹ー

(注) 理由の助詞「～ニ」には、利島方言では通常「～ニッテ」、又は「～ニヨッテ」で現れることも多い。

100-1. 「雨が降りつつある」は、

a 「降りそうなこと」か、

b 「今ぼつぼつ降り始めたこと」か、

c 「すでに盛んに降っていること」か …… c

ー 2. 「貯金が増えつつある」は、

a 「これから少しずつ増えようとしていること」か、

b 「すでにある程度ふえていること」か …… b

ー 3. 「貯金を増やしつつある」は、

a 「増やそうと思っていること」か、

b 「それがだんだん実現していること」か、

c 「すでにかなり増えていること」か …… c

(参考) 101. (去年は今ごろ、ものすごい) 台風が来たね

「タ¹コイフーガ 「キ¹コタツケ¹「ナ¹ー

(参考) 102. (あの辺には) 昔は、よく花が咲いたのだ

ム¹「カシワヨ¹コク ハ¹「ナ¹コガサイケダ¹コジヨ

(参考) 103. おばあさんは、さっき、あっちへ行ったよ

バ¹「バ¹ーワ 「サ¹コッキ アツ¹「チ¹コエイッ¹「ケ¹コド

Ⅲ. まとめ

当方言は伊豆諸島にあっては八丈島に次ぐ「古風」を保つものとして知られる方言で、設問4, 7, 10, 13, 14, 15等には文末助詞的な「ソーロー」が期待されたのであるが、当調査においては捕捉されなかった。しかし、現在でも「ソーロー」を話す人はおられ、1944年6月の現地調査では90才の女性二人の会話から実際に確認をした。

利島の会話は全般にゆっくりした口調で発音が明瞭、それが特徴的である。アクセント・イントネーションは現代東京以上かとも思えるはっきりした「東京アクセント」が観察される。ところが、無声子音間の狭母音の無声化は東京と違って、静岡県富士川以西の静岡・清水地方と同じように無く、「有声が強い」という印象を得る。富士川以东伊豆半島や神奈川県(東京も同じ)で無声が強い発音であるのに比べ、静岡・清水地方と一致するような発音が注目される(なお、静岡・清水地方は連母音融合現象は盛んであるから、その点においては共通しない)。次に「～ている」形を通例の関東各地方言のように「～テル」ということがなく、またいわゆる連母音融合・助詞の融合現象がない。エイ連母音もきちんと[エイ]と発音されるのも東日本では異色というべきである。

このように分布上の観点から問題になる特徴はまだある。「出した、指した」をダイタ、サイタという「サ行イ音便現象」があること、動詞「否定」表現に「～ン」があること(例:「直らない、降らない、行かない」を、ナオランニ、フランガ、イカンガナなどの

形で採集)、これは定説では静岡・神奈川県境以西のものと言われているとに照らすとき注意すべきものである。本調査では取られていないが、動詞過去形(完了形)の連体用法において長音化する現象(例;見ターニヨッテ、暮ライターモノ)も注目される。本件は伊豆半島、富士山麓、千葉県房総半島にあるもの。次に「推量」表現でナンノー(なろう)、イタランノー(居たろう)、助詞の「を」がヲバと発音された例(ジダイウオバく時代を>)に接しているが本調査では得られていない。

なお、利島では待遇法的に男女差無く、目上、目下の区別のない言い方をするのが一般的であるが、設問16, 32, 84における「相手に向かって問いかける場合」のみ、ナという場合と、ネという場合がある。ネの方が相手に対する気遣いがあるものと思われる。

利島方言については大島一郎氏に論文「利島方言の語法(1, 2)」(昭和「国語学」)があり、すでに内容については知られることが多いのであるが、今回改めて私として確認したものである。大島氏のご研究を確認証明する意味があるとなれば幸いである。

(やまぐち こうよう 静岡大学人文学部講師)